



平成22(2010.)年4月26日(月)発行

発行者 小浜市多田2-2 中山クリニック 院長 中山茂樹

http://www.nakayama-clinic.jp

## 青年に戻る

院長 中山 茂樹

桜も散り、初夏かなあと思えば寒い日々がつづきます。異常気象、温暖化、エルニーニョ現象など、いろいろの原因だと言われていますが、温暖化と氷河期はどちらが先にくるのでしょうか。ただ、現存の我々には、どうか将来が住みやすく、希望のもてる日本であることを祈っています。

先月、義弟が、例年通り福島からはるばるやって来て、11年連続で若狭マラソンに参加しました。外科医をやっているのですが、毎月、各地のいろいろなマラソンに参加しているようです。うらやましい限りです。体脂肪も5%以下というからおどろきです。ただ、中性脂肪は低すぎるとマラソンのとき、走る体力に影響するそうです。私もこのメタボを解消しなければいけない時が来たようです。そこでつい、義弟に来年のマラソンには私も参加すると約束してしまいました。(しまった!)

さてさて、10何年ぶりに、先月、先々月と私のラグビーの後輩が教授に就任しましたので、そのお祝いのパーティのために、東京へ行きました。品川駅が記憶にあるのとは全く別のものになっていました。駅というよりはショッピングモールのような感じで、品川駅の中だけですべて用事がすんでしまうんじゃないかと、感じられました。ただ、仲間は卒業して30数年経とうとも全く同じ学生時代に戻ったというより、維持している状況で何の違和感もなく付き合えました。学生時代というのは一つの勲章のような、大事な宝物だと思えました。年々歳々人同じからず、とか言いますが、花より人のほうが変わらない感がありました。

実は、もともと、私は本来非常に恥ずかしがり屋で人と話すのが苦手な生活をして来ました。仕事ですという話ができるのですが、プライベートは意外と人見知りです。話を合わせるのが下手くそだなあといつも思っています。その点、友人になってしまうと何でも話せるのと、考え込まないで済むので、気楽な冗談も話せるのです。30年離れていても昔の友達はすぐあの青年の時点に戻れるのが何より嬉しいものです。あの連中とはいつまでも大切につきあいたいものです。

穏やかなひととき 看護助手 松宮 邦子

久しぶりに気持のよい天気で、ポカポカした日曜日の出来事です。洗濯と掃除に追われバタバタとしたあと、実家へ出かけました。私の実家は若狭町で、すぐ近くですがとても静かでのどかなところですよ。

家へ着くと父が近くの田んぼに見えました。呼びに行こうと思った時、ふと、子供の頃によく通っていた近道を思い出しました。その道は田んぼの細いあぜ道を通り川を渡り、少し高くなっている土手を登って行きます。なつかしいなあと思いながら歩いていると、子供の時は急ぐ必要もないのにいつも駆け足で、川を渡る時は狭い木の板をおそるおそる渡っていたのを思い出しました。今はその川も小さく見え、橋も2、3歩で渡れるのに…。なんだかおかしくて、一人笑ってしまいました。

辺りの風景は変わっているのに草花や風、水の流れ、自然の臭いはそのままに子供の頃に戻ったような気がしました。ふだん、目に付かないツクシも沢山生えていて嬉しくなり、思わず手に取りました。

子供の頃は何も思わず通っていた所なのに、今はさっきまで慌ただしく動いていた私を忘れさせてくれる場所となっていました。本当に穏やかな気持ちにさせてくれるのはこういうところにあるんだなあと思いました。

ちょっとした散歩でしたがおかげでまた明日から頑張れそうです。

… … … … … … … …

書籍紹介 「フィリピンと対日戦犯裁判 1945～1953年」

(岩波書店 永井 均著 1150円 2月発行)

1945年2月、沖縄戦の2ヶ月前、フィリピンで111万人が侵攻してきた日本軍とアメリカ軍との戦いで殺された。全人口の14分の1に当たる。日本軍はその他、各地で数百人から千人の単位で民間人を無差別に虐殺した。このことを文書や証言で裏付けた大労作。かくして、フィリピンで死刑判決を受けた日本軍の戦犯は79名になった。しかし、当時のキリノ大統領は妻子4人を日本軍に殺されながら、「日本人に対する憎悪の念を残さないため」「キリスト教的精神から」と言って内2割の者を恩赦にし、釈放した。このような例は空前絶後である。現在、フィリピン人の対日感情はおおむね良いのはこのキリノ大統領の精神のおかげとみてよい。日本人はこのことを忘れていようである。「赦しの先行」と著者は呼んでいる。加害者の日本はどう報いるべきか。

… … … … … … … …

《あとがき》 当院ミニギャラリーは4月より 山崎久子さん(小浜市北塩屋)の油絵です。ご鑑賞下さい。